

事例から学ぶ

介護福祉施設の防犯対体制強化策

－防犯体制を外部に見せる対策を－

今から9年前の2016年7月26日、相模原市の障害者施設で、暴漢が侵入し19名の入所者を刺殺し、26名が重軽傷を負う痛ましい事件が発生しました。近年、確たる動機の無い無差別的犯行が増加する中で、介護福祉施設が再び狙われる可能性は否定できません。また、先月立川市の小学校で、暴漢が小学校に乱入して教師に暴行する事件が発生し、またもや小学校の防犯体制が問題となりました。地域に開かれた福祉施設と厳しい防犯体制は矛盾する問題ですが、「この施設は防犯体制が厳しい」と外部から見えることは抑止力として重要です。本セミナーでは、「見せる防犯体制」の方法をご紹介します、不審者侵入時の対応策などを考えます。ご参加の方には「不審者侵入時の対応マニュアル（動画付き）」を差し上げます。

セミナーの概要

1. 相模原障害者施設事件の検証

犯行予告までありながらそれでも防げない犯行

2. 法務省法務部報告に見る無差別殺傷事犯の分析

理解できない動機・狙うのは弱者・自殺願望

3. あの事件以来小学校の防犯体制は変わった

“さすまた”で児童を守ろうとした職員たち

4. 実態調査でわかった防犯体制の問題点

外部から無防備に見えることの問題

5. 介護福祉施設の防犯体制見直しの具体策

侵入防衛策、機械警備の限界と活用策

6. 犯人と遭遇した職員の対処方法は？

さすまたでは取り押さえられない

逃げる・施設内に知らせる・警察に通報

2. 防犯カメラやセンサーは抑止力として使う

防犯カメラのモニターを24時間監視することはできない

不審者が侵入を諦めるように見せることが大切



もしエントランスにこんな貼り紙があったら

防犯体制強化のご案内
このたび当施設では、
当局の指導により
防犯体制を強化しました。



防犯カメラが不審者を検知すると、
自動的に外部に通報
されます。
ご注意ください。

職員の使命は不審者を取り押さえることではない

不審者遭遇時の職員の心得

- つかまらず逃げる
- 施設全体に知らせる
- すぐに警察に通報する



① 逃げる（絶対に捕まらない）

職員がつかまれば多数の利用者が犠牲になる。たとえ他の職員が拘束されても、独りだけであっても逃げて知らせる。

② 施設内に知らせる

施設内の警備員や他の職員に緊急事態を知らせ、迅速に警察への通報につなげる。館内放送に自動的につながる非常ブザーなどが有効。

③ 警察・消防に通報する

施設内での通報が無理な場合は、近隣の協力をお願いして通報する

◎ 犯人が迫っている場合は火災報知器を押す！

安全介護セミナー開催要領

- 開催日時：7月16日 13:30～15:00（7月9日締め切り）
- 主催：株式会社安全な介護
- 講師：株式会社安全な介護 代表 山田滋
- 受講料：1施設・事業所（PC3台まで）5,500円（税込）
- 受講方法：Zoomによるオンライン受講
- 提供資料：テキスト（手持ち資料）・お役立ちツール
- 申し込み方法：下記URLからお申し込みいただき、所定の口座に受講料をお振込みください。

<http://tiny.cc/bibuwz>

※安全な介護の顧問先法人は無料ですので申込書にチェックしてください

講師プロフィール

山田 滋 早稲田大学法学部卒業と同時に現あいおいニッセイ同和損害保険入社。2006年7月よりインターリスク総研主席コンサルタント、2013年5月末あいおいニッセイ同和損保を退社。2014年4月より現職。高齢者施設や介護事業者と取り組み、現場で積み上げた実践に基づくリスクマネジメントの方法論は、「わかりやすく実践的」と好評。各種団体や施設の要請により年間150回のセミナーをこなす。

セミナーに関するお問い合わせは

株式会社安全な介護 受付担当 森

mail:soudan@nanasha.co.jp